

1 木曾山林資料館 (旧木曾山林高等学校)



- 明治34年に我が国初の林業科をもつ実業学校として誕生した「木曾山林学校」。大正元年の校舍移転新築の際に設けられた「林業標本室」が100年以上にわたって受け継がれ現在に至る。
- 明治から現代まで生徒が使用した林業関係の教科書、ドイツ林学の原書、生徒が残したノート、学校や校友会の刊行物、実習に用いた測量器械や測樹用具、国産材・外材の木材標本（材鑑）等、3000点を越える膨大な資料を所蔵。その他林業史を中心とした蔵書も2000冊を越える。
- 所蔵する「林業教育資料」と、資料館の目の前に広がる約58haの「演習林」は、2014年3月に「林業遺産」認定。



2 御料館 (旧皇室林野局木曾支局庁舎)



- 木曾谷最大の西洋建築を昭和2年建設当時の図面をもとに復元改修。三方にアーチを持つ玄関の車寄せと屋根中央部にある八角形の塔屋が特徴的な、シンメトリーの美しい建物で、アールデコの意匠もみられる。
- 御料林時代の文書や道具類など、貴重な林野行政の史料を展示。明治14年の第二回国内勧業博覧会に出品された「木曾谷模型」や動植物の標本も数多く収蔵。
- 2012年11月に木曾町有形文化財に指定。
- 2018年3月に「林業遺産」認定。



3 赤沢自然休養林森林資料館・森林鉄道記念館

- 日本三大美林の一つ樹齢約300年の木曾ヒノキを見学でき、「森林浴発祥の地」とも知られ、貴重な温帯性針葉樹林として「木曾悠久の森」と呼称され保護されている。
- 森林資料館では、江戸時代の運材方法である「流送」の資料や伊勢神宮式年遷宮用の木材を切り出す「御杣始祭」の資料を展示。
- 鉄道記念館には「ボールドウィン蒸気機関車」など林鉄の資料、赤沢自然休養林内には流送時代の「床堰」が見られ、木曾谷で行われた当時の林業を知ることができる。



木曾地域 林業の歴史 散策マップ



4 大桑村歴史民俗資料館

- 村内から切り出した木材を用いて、伝統的な小屋組技法で築造。
- ひときわ目を引くのが、展示室ホールの高い天井を支える5本の大きな柱。「木曾五木」が1本ずつ使われており、木肌の違いを見て・触れて感じることができる。
- かつて使用されていた山仕事の道具類のほか、玄関ホールには樹齢約300年の歴史を語る木曾ヒノキの切り株を展示。



5 南木曾町博物館歴史資料館

- 重要伝統的建造物群保存地区の妻籠宿内にあり、重要文化財指定の「脇本陣奥谷」、復元した妻籠宿本陣と共に南木曾町博物館を構成。
 - 木曾谷での林政の変遷や施業の様子を知ることができる資料や、山仕事の道具類等を展示。
 - 博物館分館の「田立民俗資料館」には、住民から提供された山仕事の道具類も多数展示*。
- *見学は南木曾町教育委員会（電話0264-57-3335）へ要問合せ



6 山の歴史館

- 御料局が山林を管理するため明治32年に妻籠宿本陣跡地に建てた洋風建築を移築復元。平成18年に県指定。
- 木曾谷での林政の変遷や施業の様子を知ることができる資料や、山仕事の道具類等を展示。
- 島崎藤村の兄で妻籠本陣の当主広助が関わった「御料林事件」についても解説。
- 敷地内には、かつて森林鉄道を走った機関車も置かれている。



🏫 林業教育を行っている教育機関

🚂 木曾森林鉄道 (遺産群)



木曾森林鉄道は、大正初期から昭和40年代にかけて、木曾地方で運用されていた森林鉄道の総称。木曾ヒノキ等の木材搬出に用いられ、歴史と規模の大きさ等から国内の森林鉄道の代表的存在だった。木曾地方では多くの鉄道施設跡を見ることができる。

2014年3月に「林業遺産」認定。